

譜例④⑤⑥のそれぞれのメロディを口ずさんでみてほしい。

おお！目の前に〈THE ニッポン〉の愛しき風景が広がってきた。

そしてアナタは気づくはず……〈ヨナ抜き音階=覚えやすい〉ということに。

そりゃそうだ、5音しか使っていない。覚えやすいに決まっている。

極意 39 | ヨナ抜き音階は覚えやすい

ヨナ抜き音階をたどってゆくと、唱歌や童謡にたどり着く。昔の子供向けの歌はこの音階で作られていることが多い。この音階に慣れ親しんだ若者はやがて大人となり〈演歌〉を口ずさむようになる。演歌もまたそのほとんどが、ヨナ抜き音階でつくられている。

〈ヨナ抜き音階〉を味わえる演歌の名曲

- 「北国の春」千昌夫
- 「北酒場」細川たかし
- 「箱根八里の半次郎」氷川きよし

ヨナ抜き音階は〈日本人の拠り処〉であり、ソウル・スケール(音階)なのであろう。

ヨナ抜き音階の〈魔法〉

ヨナ抜き音階を使った曲は覚えやすい。そして何より親しみやすい。

実はこの音階、構成音[ドレミソラ]の音を超テキトーに弾いてみるだけで、あっという間に心地よいメロディができてしまうという《魔法》のような性質を持っている。

では早速、実験開始……。

[ドレミソラ]のみを使用して、鍵盤上で思いつくままに超アドリブのフレーズを弾いてみたのが、譜例⑦⑧だ。

なるほど、和風に聴こえる上に、親近感のある素朴で優しいメロディ。勝手気ままに弾いたにもかかわらず〈それっぽく〉聴こえるではないか！

というワケで、この実験の成功を受けて、私は〈作曲初心者〉の皆さまに対して次のようにオススメしたい。「まずはドレミソラだけを使ってメロディをつくってみては？」……と。